

組合員のみなさまへ



高知県農業協同組合
代表理事組合長 島田 信行

ご あ い さ つ

組合員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は当組合の事業運営に格段のご理解とご協力をいただいておりますことに、心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、ロシアによるウクライナ侵攻から4年が経ちましたが、今なお戦争終結に向けた兆しは見通せないなか、今年に入ってからの中東情勢の緊迫化によって原油や資材の価格上昇と供給の不安定化が世界的に拡大する事態となり、地域農業を取り巻く環境は一段と厳しさを増す1年となりました。

こうした国際情勢の先行きの不透明性に伴って円安の進行も加速し、くらしや営農に関わる多くを輸入に依存する日本においては、「良質な食料を、合理的な価格で、安定して手に入り続ける状態を維持する」という食料安全保障の確保に大きな影響を及ぼす年となりました。

また、金融情勢を見ましても、日銀による政策金利の段階的な引き上げや日経平均株価が過去最高となるなど、景気上昇局面の動きを見せておりますが、日々の生活実感との乖離が大きく、依然として不透明感のある状況が続いております。

将来への見通しの不確実さが増すなか、当組合では、3か年計画の実践初年度として、①農業基盤の確立、②経営基盤の強化、③組織・事業基盤の構築を軸に持続可能な農業の実現と安全安心な食料の安定確保に向けて組織経営の基盤の強化を図りながら、食と農の未来づくりに向けて各種施策を実践してまいりました。

令和7年度の経営状況として、全体の事業総利益段階において、計画を上回る実績を確保することができました。販売事業につきましては皆様のご協力もあり、受託販売品の取扱高は、66,081,083千円となり、前年度の実績ならびに当年度の計画を上回る成果となりましたこと、厚く御礼申し上げます。事業利益段階においても、事業管理費の抑制などにより、当年度の計画を上回る結果として、664,493千円を確保することができました。

経営環境は絶えず変化しており、貯金量の流出を踏まえた余裕金の効果的な運用、長期共済保有高の維持、生産資材価格の高騰に向けた対応、集出荷場などの共同利用施設の再編と更新、米価の変動を踏まえた主食用米の安定供給、中山間地域の農業生産基盤の維持・強化など、組合経営の重要な課題として強く認識しております。経営理念に掲げるよりよい未来づくりに向けて一つひとつ取組んでいく所存でございますので、当組合へのご支援とご協力を引き続き賜りますとともに、組合員の皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げ、あいさつといたします。